

# 三重県保険医新聞

発行所  
三重県保険医協会  
発行人 渡部 泰和  
三重県津市観音寺町429-13  
電話(059)225-1071  
FAX(059)225-1088  
URL <http://mic-hok.org>  
購読料は1部200円(会員の購読料は会費に含まれています)

## 第14回 三重県保険医協会医療研究フォーラム抄録集

と き 9月2日(日) 13時開催

ところ ホテルグリーンパーク津(JR・近鉄津駅より徒歩1分)【三重医療研、意見交流懇親会】

《タイムスケジュール》

13:00~13:03 開会挨拶  
13:06~16:54 三重県保険医協会医療研究集会 【6階葵橋の間】  
16:55~16:58 閉会挨拶  
17:05~ 意見交流懇親会(立食形式) 【6階藤萩の間】

1	発表 質疑	13:04~13:13 13:13~13:16	寺本 勅男(朝日町・寺本医院) 高齢者の心臓、肺疾患の緊急症例の対処
2	発表 質疑	13:17~13:26 13:26~13:29	草川 雅之(津市・草川医院) 認知症を専門としない認知症サポート医が驚いた治る認知症の一例
3	発表 質疑	13:30~13:39 13:39~13:42	北尾 進(桑名市・青峰) 当院における現状と将来 —第一報—
4	発表 質疑	13:43~13:52 13:52~13:55	小西 公巳(名張市・老健ふくにし) 1) ワーファリンの管理にて 2) 疥癬
5	発表 質疑	13:56~14:05 14:05~14:08	宮崎 智徳(津市・津生協病院附属診療所) 外来での呼吸リハビリテーション
6	発表 質疑	14:09~14:18 14:18~14:21	廣藤 秀雄(四日市市・三重中小企業経営者協会) 耳科5軒で難渋した後鼻漏が偶然に感冒受診時の東西統合医療[竹筍温胆湯/CAM/...]にて完治した1例
7	発表 質疑	14:22~14:31 14:31~14:34	上瀬 英彦(大台町・上瀬クリニック) 高齢者と亜鉛
8	発表 質疑	14:35~14:44 14:44~14:47 14:47~14:57	井谷 真由美(津市・津生協病院) 無料定額治療事業と手遅れ死亡事例調査の報告 休 憩
9	発表 質疑	14:57~15:06 15:06~15:09	真鈴川 寛(四日市市・真鈴川整形外科) 三重県保険医協会の歴史とその歩み
10	発表 質疑	15:10~15:19 15:19~15:22	寺本 祐二(鳥羽市・寺本歯科医院) 薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)の現状と医科歯科薬科連携の重要性について
11	発表 質疑	15:23~15:32 15:32~15:35	戸田 喜之(津市・戸田歯科医院) かかりつけ歯科医として ~その5~
12	発表 質疑	15:36~15:45 15:45~15:48	鶴飼 伸(桑名市・うかい歯科) 学校歯科治療調査から見えてきたもの
13	発表 質疑	15:49~15:58 15:58~16:01	吉田 正(津市・スバル歯科医院) インプラント治療の長期経過
14	発表 質疑	16:02~16:11 16:11~16:14	武田 恵世(伊賀市・歯科武田医院) 国定公園 青山高原の自然景観の危機的状況
15	発表 質疑	16:15~16:24 16:24~16:27	神保 雅也(津市・津生協病院) 高校生夏の医療セミナー
16	発表 質疑	16:28~16:37 16:37~16:40	河野 壮登(津市・楠井法律事務所) 医療クレーム保険について
17	発表 質疑	16:41~16:50 16:51~16:54	真鈴川 聡(鈴鹿市・ますずがわ神経内科クリニック) 認知症疾患医療センター連携型の半年間の歩み

1) 寺本 勅男 (朝日町・寺本医院)	医師
高齢者の心臓、肺疾患の緊急症例の対処	
共同研究者:	
キーワード	
肺炎	心不全
COPD	心筋梗塞
<p>高齢者の心臓、肺疾患では緊急に病院搬送、入院治療が必要な症例がある。日頃から心臓疾患、肺疾患の専門的な治療の出来る大病院と連携を持ち、緊急時に備えなければならぬ。</p> <p>外来のみの診療所では、こうした症例に対して十分精査、診断がつかないまま搬送することが少なくない。迅速に、効率よく対処する必要がある。</p> <p>後から考えて、必ずしも満足な成果が得られていない点を反省し、症例報告したい。</p>	

2) 草川 雅之 (津市・草川医院)	医師
認知症を専門としない認知症サポート医が驚いた 治る認知症の一例	
共同研究者:	
キーワード	
認知症	早期胃癌
ビタミン欠乏症	胃内因子抗体
<p>症例は82歳女性Tさん。主訴は次第に顕在化したもの忘れです。</p> <p>発症経過: 40代後半左乳癌の手術を受け、50代中盤に退職しました。 2~3年前からTさんの夫が起こした自動車の小事故の処理をどうしたらよいかと問い合わせの電話が当院にあたり、知人女性に20歳以上年下の男性の縁談を持ち込んだり常識から外れた行動が見受けられました。その頃1年間には夜間に判然としない体調不良を訴える電話が2回ほどあり、途中で説明しきれなくなって切ってしまう状態でした。 2017年8月にはめまい発作で他院を受診し輸液を受けましたが、2日後当院を受診した際には受けた治療を全く覚えていませんでした。料理や炊飯もできなくなっているとのことで、同年12月ものの置き忘れ、同じ事を何度も聞く様になり夫に伴われ初診しました。HDS-Rでは11/30点で、時計描画は針が沢山書かれていました。 頭部外傷既往や飲酒歴はなく血液検査では軽度の脂質異常症があり、TSH軽度上昇、F-T4正常域でした。大球性高色素性でしたためビタミンB12を測定すると高度に低下していました。MCV, MCHの推移からはこの3~4年継続的に低値であったと推察されました。2012年に胃の高分化型腺癌を内視鏡的切除されており、胃内視鏡所見では萎縮性胃炎は認めましたがHelicobacter pylori抗体は陰性でした。ビタミンB12投与で認知機能は改善してきており、今後胃内因子抗体、胃壁細胞抗体を測定する予定ですが諸先生方のご意見をお聞きしたく提示します。</p>	

3) 北尾 進 (桑名市・青峰)	医師
当診療所における現状と将来 —第一報—	
共同研究者:	
キーワード	
整形外科	医療相談
<p>目的: 当診療所の現状を報告するとともに、将来を展望する 方法: 当診療所で、医療相談をした結果を分析する 結果: 当診療所では、整形外科 リハビリテーション科 心療内科 の診断および治療を行っている。 平成29年度 医療相談を行ったのは、8例であった。 具体的内容は、認知症 4例、薬剤の副作用 3例、整形外科疾患の治療と予後であった。 考察: 高齢者の急速な増加の結果、各種疾患が増加している。 なかでも、認知症が増加している。 認知症は様々な症状を呈する。 これに対する治療も多岐にわたった。</p>	

4) 小西 公巳 (伊賀市・介護老人保健施設ふくにし)	医師
1) ワーファリンの管理にて 2) 疥癬	
共同研究者:	
キーワード	
ワーファリン	PTの記録
疥癬	
<p>毎日の診療は 単調だがときどき 非日常的な出来事に出くわす。 他者にあっては、極くありきたりの事でも小生にとっては、ちょっと誰かに聞いてほしいようなこともある。 1) ワーファリン 最近では DOAC (Direct Oral AntiCoaglant) が 使われることが多いが、心房細動による脳梗塞を予防する目的で ワーファリンが使われる。DOACは高価なので 老健ではワーファリンが使われる。ワーファリンは 過量になると出血傾向が亢進する為 適正な量を保持するためにプロトロンビン時間(PT)を定期的に測定する必要がある。この管理のために1か月に1回程度 採血してPT-INRを測定することになるが、採血の日やPT-INR値、薬剤投与期間を経時的に把握しやすいように表を工夫した。 2) 疥癬 ヒゼンダニによる皮膚病であるが 特に高齢者収容施設で集団発生すると 厄介である。あるいはと疑い 顕鏡すると ダニを発見できた。供覧する。します。</p>	

5) 宮崎 智徳 (津市・津生協病院附属診療所)		医師	
外来での呼吸リハビリテーション			
共同研究者： 宮岡 千恵、井出 宏、西川 龍、杉谷 知美、川崎 正教			
キーワード			
COPD		呼吸器リハビリテーション	
6 分間歩行試験		QOL	
<p>はじめに) 呼吸リハビリテーションとは、呼吸器に関連した病気を持つ患者さんが、可能な限り疾患の進行を予防あるいは健康状態を回復・維持するため、医療者と協働的なパートナーシップの下に疾患を自分で管理して、自立できるよう障害にわたり継続して支援していくための個別化された包括的介入である (3 学会合同呼吸リハビリテーションに関するステートメント 2018 年)。COPD (慢性閉塞性肺疾患) の呼吸困難の軽減、運動耐容能の改善、健康関連 QOL の改善に有効であるなどと報告されている。今回、津生協病院附属診療所で外来通院患者に実施している呼吸リハビリテーションの検討を行ったので報告する。</p> <p>対象) 当診療所通院中の慢性呼吸器疾患患者で、2017 年 4 月から外来呼吸器リハビリテーションを開始した患者 22 名中、継続している患者 17 名で検討を行った。男性：14 名、女性：3 名。年齢は、48 歳から 86 歳まで平均 74.6 歳で、70 歳台：7 名・80 歳台：6 名と 70 歳以上で 3/4 を占めていた。疾患の内訳は、COPD が 12 名と約 7 割を占め、間質性肺疾患：4 名、手術後の慢性呼吸不全：1 名であった。在宅酸素療法併用症例は 10 名、在宅マスク式換気補助療法併用症例 1 名であった。</p> <p>結果・考察) 労作時呼吸困難度の変化・肺機能検査・6 分間歩行試験・握力・体重・増悪回数などの評価を検討して報告する予定である。症例提示を行い呼吸リハビリテーションのプログラムと運動療法的一端も紹介したい。</p>			

6) 廣藤 秀雄 (四日市市・三重中小企業経営者協会)		医師	
耳科 5 軒で難渋した後鼻漏が偶然に感冒受診時の東西統合医療 [竹筴温胆湯/CAM/...]にて完治した 1 例			
共同研究者：			
キーワード			
難渋する後鼻漏		感冒	
東西統合医療		竹筴温胆湯	
<p>【症例】64 歳、女性、教諭。          (経過) 2010 年 10/23 初診。数年前から高血圧を指摘、前日血圧 168/102、耳鼻科にも通院加療中と訴えた。高血圧症治療を継続した。季節性花粉症もある。(当該診療) 2015 年 2/13 再診時、1 週間前から喉が痛く、37.0 度の微熱があり、4 日前からドロ鼻。2 日前から喉がゼイゼイして痰あり。36.9 度。咽頭発赤し臨時に 5 日処方した。感冒/急性咽頭炎/急性気管支炎と長引く傾向から竹筴温胆湯 7.5g、クラリスロマイシン 400mg などの構成。3/17 再診時、痰が切れずにずーっと (5 軒の耳科を) 回って数年間治療して治らなかったのに前回の薬で一発でスッキリしたと!診察終了前に「そう言えば…」と物語った。</p> <p>【考察】偶然の東西統合医療が難渋する後鼻漏に奏効して完治した。最近では耳鼻科処方に東洋薬の併用も増えているが、副鼻腔炎の増悪では葛根湯加川芎辛夷や辛夷清肺湯が一般的であり、ごく一部の文献にのみ竹筴温胆湯が記載され、末尾わずかに「長引く咳…神経質な咳」の説明しかない。本例はこの要件を満たす患者の免疫応答状況と処方が同期した結果、思いかげず奏功したのではないかと考える。</p>			

7) 上瀬 英彦 (大台町・上瀬クリニック)		医師	
高齢者と亜鉛			
共同研究者：			
キーワード			
血清亜鉛濃度		亜鉛補充療法	
酢酸亜鉛水和物		ポリファーマシー	
<p>老化と微量元素の欠乏との関連は以前から指摘されている。特に亜鉛は 300 種とも云われる酵素活性に関わり、鉄に次ぐ体内含有量で、60kg の人で約 2.3g の体内含有量と云われている。2016 年に日本臨床栄養学会が亜鉛の治療指針を作成し、2017 年 3 月に我が国では初めて低亜鉛血症に対してウイルソン病の治療薬のノベルジン(ノーベルファーマ社)が適応獲得し、亜鉛治療への関心が高まっている。しかし、鉄欠乏と異なり、亜鉛の欠乏は必ずしも明確な症状の発現を来す訳ではなく患者さんの認知度も決して高くは無いので見逃されているケースも多々あると推察される。</p> <p>亜鉛欠乏が来しやすい疾患としては、透析患者さんを始めとする CKD、糖尿病、炎症性腸疾患、肝硬変を始めとする肝疾患が知られているが、高齢者層は亜鉛欠乏のハイリスク群である。そこで、高齢者における亜鉛について、年代による推移、性差の有無、相関する因子、ADL による比較、グリケーションとの関係、血清亜鉛値別の Kaplan-Meier による生存曲線の比較、ポリファーマシーと亜鉛濃度の関係、亜鉛補充療法の短期効果(アンケートによる)、長期効果、補充前後の血清亜鉛濃度の推移について自験例を基に報告する。時間があれば、興味ある症例や亜鉛投与時の注意点などについても述べたい。</p> <p>最後に、亜鉛補充に関する最適な投与量や投与期間については、今の処明確な基準はなく今後の検討課題である。</p>			

8) 井谷 真由美 (津市・津生協病院)		医療ソーシャルワーカー	
無料定額治療事業と手遅れ死亡事例調査の報告			
共同研究者：			
キーワード			
手遅れ死亡事例		無料低額診療事業	
自己責任論			
<p>お金あるなしに関わらず、治療を受けられる権利を確保するため、2013 年 8 月より無料低額診療事業(以下、無低診と呼ぶ)を開始した。</p> <p>実際に無低診を利用したことによって、再び社会復帰できたケース、公的な社会保障につなげたケースなど、無低診が存在していたことで、患者さんの生活、医療の保障を受けることができた。しかし、すべての方がうまくいったケースばかりでなく、社会保障の利用に至らない狭間にいる患者さんは、取り残されている実態にある。</p> <p>これまでの経過の報告とともに、社会保障がもっと利用しやすいように改善を求めていきたい。</p> <p>2017 年度の手遅れ死亡事例報告が全国で 63 例だった。三重ではそのうち 5 例の報告があった。事例の共通点としては、60~70 代の無職・男性で無年金もしくは低年金だった。家族とも疎遠状態で、誰にも頼ることができず、医療にかかるまでに時間を要し、最終的に命が奪われた。</p> <p>自己責任論が飛び交う中で、患者さんそれぞれの暮らしはどうだったのかと目を向けていく必要がある。また、誰もが安心して生活できるシステムを改めて見直すべき時代であることも忘れてはならない。</p>			

9) 真鈴川 寛 (四日市市・真鈴川整形外科)	医師
三重県保険医協会の歴史とその歩み	
共同研究者:	
キーワード	
保険医協会	医療フォーラム
カラオケ大会	患者の窓口負担率
<p>昭和49年6月、三重協会の設立総会が行われ、全国で20番目の協会として保団連に加盟した。私は、この総会に出席して以来、深く協会活動に関わり、会長も15年間つとめた。この44年間の回顧し、今後の発展に繋げたいと思う。</p> <p>最初の5年間、急激に会員数が伸び、会員増加数は全国でもトップで5年間連続して保団連の表彰を受けた。会員増員の原因は、初代会長の山浦久治氏の人徳、日本一安い会費、休業保障、保険医年金の共済事業が会員にメリットを与えたこと、県医会や地元医師会の理解があったこと、実質減点を受けた会員の立場に立って、全面復活ができたこと、同級生の坂口力議員を通じて、国会への働きかけを行い、医療問題への理解を深めて頂いたことなどによる。</p> <p>残念なことに、山添会長は急逝され、そのあとを中村陽一先生が引き継がれた。</p>	

10) 寺本 祐二 (鳥羽市・寺本歯科医院)	歯科医師
薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) の現状と医科歯科薬科連携の重要性について	
共同研究者:	
キーワード	
医科歯科連携	
<p>【目的】薬剤関連顎骨壊死 (medication related osteonecrosis of the jaw, 以下MRONJ) はその発生頻度は低いものの、ひとたび発症して広範囲に及ぶとその治療には難渋し、患者は苦痛と重篤な機能障害を伴うことになる。それを予防することが医科歯科薬科連携の重要な役割である。今回われわれはMRONJの実例と医科歯科薬科連携の現状について報告する。</p> <p>【方法】演者はこれまで大学病院、市中病院にて医科歯科連携を行ってきた。口腔外科医の立場からMRONJ患者の治療にあたり症例を重ねてきた。その一例として再発乳がん患者のMRONJを紹介する。また、現在は開業医の立場から医科歯科連携を行っており、その日常臨床から医科との連携、さらに薬科との連携なくしてMRONJを防ぐことはできないことを実感し、医科対診のあり方ならびに薬科との連携を行っている。その方法として、上記MRONJ患者の実例を医師と薬剤師に徹底周知すること、そしてその発症を防ぐためにビスホスホネート製剤や抗RANKL抗体製剤等の使用状況の徹底把握であり、お薬手帳の存在と医科、薬科との対診を強化することを方法としてきた。</p> <p>【結果】すでに薬剤が投与されている患者の継続的な口腔ケアがMRONJ予防に必要となるが、本当の意味での予防は投与前に歯科受診をすることである。結果として残念ながら当地域では予防のための組織的な連携は存在しない。さらに内服薬よりリスクが高いとされている注射製剤に関する記載がお薬手帳にされていないことが多く、問診においても歯科側に伝わらないことが多発している。しかし自験例では事前に行った対診によりハイリスク患者の抜歯処置を適切な形で、そのリスクを理解したうえで対応できた。自験例から地域単位でのネットワークの構築とコンセンサスをもったシステムの必要性を痛感した。</p> <p>【考察】一開業医として医科、薬科と連携していただくだけではなく、組織としての繋がりが必要となる。すでに全国ではネットワークの構築がされている地域が報告されており、このような連携が各地域にて推進されることを期待する。</p>	

11) 戸田 喜之 (津市・戸田歯科医院)	歯科医師
かかりつけ歯科医として ~その5~	
共同研究者:	
キーワード	
<p>患者さんとのかかり方の違いにより長い年月の間に大きな差がでた症例 (2011.08.28)。定期的に指導・管理する事により、病変の進行が遅くなり咬合崩壊を最小限に食い止められ、長期にわたり健康が守られた症例 (2013.09.01)。</p> <p>初診が30歳代と若く治療本数が多く、急性発作を繰り返し徐々に歯の喪失が進んでいった。部分的な治療を施しながらも、30年にわたり快適な食生活している症例 (2014.08.31)。</p> <p>重度歯周病で日常の食事に支障をきたしている状態から、定期健診と、徹底した歯磨きの条件のもとに治療を行い、不快症状もなく快適な食生活を送っている症例 (2017.08.27)。</p> <p>今回は父の急逝により卒業まもなく後を引き継ぎ、大学院に通いながらの開業となった。まだ何も分らない状態で患者さんと共に試行錯誤しながら、いろいろと貴重な経験をさせてもらった症例を報告する。</p>	

12) 鶴飼 伸 (桑名市・うかい歯科)	歯科医師
学校歯科治療調査から見てきたもの	
共同研究者:	
キーワード	
学校歯科健診	健康格差
口腔崩壊	
<p>2012年から毎年大阪歯科協会が行っている学校歯科治療調査の結果、学校歯科健診で「要受診」と診断された子どものうち実に6割以上の子どもが歯科治療を受けていないことや、10本以上の虫歯がある、あるいは歯根しか残っていないような未処置歯が何本もあるなど、咬むことが困難な口腔崩壊の子どもがいると答えた学校が4割以上あるという衝撃の結果であった。</p> <p>その結果を受け、三重県の状況がどうなっているかについて2013年と2016年の2回にわたって調査したので、その結果と比較から見えてくる子どもや保護者の生活環境の問題、さらに歯科受診につながる解決の糸口などを考察したので報告する。</p>	

13) 吉田 正 (津市・スバル歯科医院)	歯科医師
インプラント治療の長期経過	
共同研究者:	
キーワード	
インプラント GBR	骨吸収 インプラント周囲炎
<p>インプラント治療を臨床に導入して、かれこれ30年近くが経過いたしました。この間、様々なトラブルを経験してきました。決して、この治療は万能ではありませんが、症例を的確に診断できれば、99%の確率で安全であることに確信が持てました。初期のインプラント治療の記録はありませんが、比較的長期に観察できた症例をご覧いただき、問題点を考えてみたいと思います。</p>	

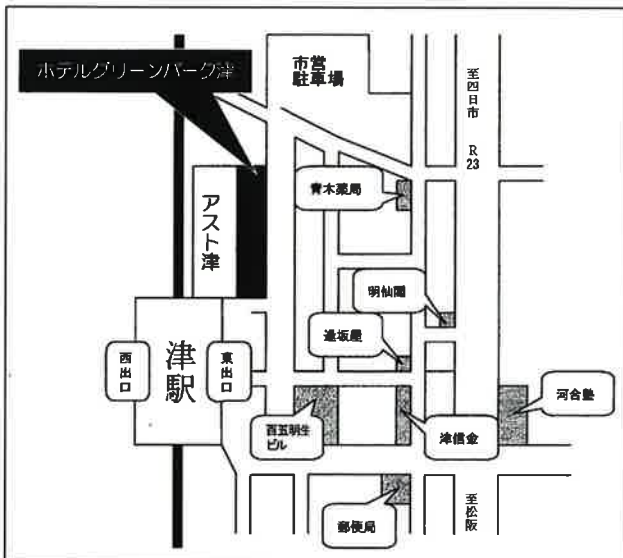
14) 武田 恵世 (伊賀市・歯科武田医院)	歯科医師
国定公園 青山高原の自然景観の危機的状況	
共同研究者:	
キーワード	
国定公園 風力発電	青山高原 のり面緑化
<p>三重県の青山高原は、その特徴的な自然景観と生物多様性を保護するため、国定公園に指定されている。中部電力の連結子会社シーテック単独あるいは、シーテックが主になり津市と伊賀市も加わった第3セクターにより全域に建設された風力発電所は、現在91基にもなっており、更に40基の増設が計画されている。</p> <p>この風力発電所について三重県、津市、伊賀市の各審議会は、「自然景観にも生物多様性にも大きな影響はない」とし、県も市も許可した。しかしながら、当初のシミュレーションよりもはるかに大きく、明らかに自然景観を損なっており、また、緑化されるはずの多数の法面は、吹き付けられた牧草が定着せず、緑化に完全に失敗して、土砂崩れが止まらない状況にある。これは、法面の傾斜が急すぎるのと、雨が多いこと、牧草により増えたシカの食害などが主な原因と考えられる。</p> <p>また、これほど風力発電所が増えても、なお中部電力は石炭火力発電所を増設中で、浜岡原発の再稼働を進めている。一方で尾鷲三田火力発電所などを、需要減少のために廃止を進めている。風力発電所は、火力発電所の削減にも、原発の代替えにもならないのである。</p> <p>2019年に固定買取期間が切れる風力発電機4基もあり、高価な固定買取がなければ、事業者にとっても特に何の利点ももたらさない風力発電所は20年経過後順次撤去されてゆくであろうが、その間に崩壊を如何に防げるか？撤去後の自然の復元ができるかどうか？が今後の重大な課題であると言えよう。</p>	

15) 神保 雅也 (津市・津生協病院)	医療ソーシャルワーカー
高校生夏の医療セミナー	
共同研究者: 曾我 珠佳	
キーワード	
高校生企画 医師像	無料低額診療事業
<p>津生協病院では、様々な高校生企画を開催しています。毎年夏休みの時期に高校3年生対象に『夏の医療セミナー』を開催しています。夏の医療セミナーは今年で10回目になります。昨年は、4日間開催し合計47名(10校)が参加しました。</p> <p>企画の目的は①高校生とのつながりづくり、②高校生の満足度の獲得、③高校生にとって津生協病院が印象に残る1日とするの3つです。内容は、患者さんのお話、医療クイズ、ディベート&amp;ディスカッション(受験対策を意識して)、医師との懇談などです。特に患者さんのお話では、病気の事、生活面で気をつけられている事、医療生協との関わり・おもい、医師に求める事など多岐にわたるお話をさせていただいています。</p> <p>患者さんのお話を聞いての高校生の感想(これまでの参加者)を紹介します。「患者さんとしてだけでなく、人生の大先輩としてとてもためになる話が聞けて良かったです。」「大変な食事制限の中でたくさんの工夫で楽しもうとする姿勢や、病気を受け止めた上での行動、同じ病気の人たちとみんなで楽しみながらお互いに支え合う所がとても印象的でした。」などです。今後も、毎年継続して開催し、たくさんの高校生とつながっていきたいと思います。</p>	

16) 河野 壮登 (津市・楠井法律事務所)	弁護士
医療クレーム保険について	
共同研究者:	
キーワード	
医療クレーム保険 医療安全	医療業務妨害行為対応費用保険 モンスターペイシエント
<p>近年、「モンスタークレーム」「モンスターペイシエント」という言葉が急速に浸透しているように、度を越した理不尽な要求を繰り返す一部の利用者について、医療機関が対応に苦慮する事態が増加しています。2017年9月には大手保険会社が日本弁護士連合会と協定を結び、医療クレーム保険(医療業務妨害行為対応費用保険)の販売を開始しました。</p> <p>このような情勢の下で、医療クレームへの対応の在り方について、医師の応召義務・診断書作成義務等との関連、医療クレーム保険のメリットと限界等、過去の判例等を踏まえて検討します。</p>	

17) 真鈴川 聡 (鈴鹿市・ますがわ神経内科クリニック)	医師
認知症疾患医療センター連携型の半年間の歩み	
共同研究者:	
キーワード	
認知症	認知症疾患医療センター
認知症初期支援チーム	
<p>鈴鹿市ではH28年より認知症初期支援チームが発足し、チーム医として発足当初より関わった。H29年には4チームに拡大し、2チームのチーム医として現在も関わっている。鈴鹿市では専従者8名体制という全国的にも有数の規模で活動している。その活動内容を紹介する。</p> <p>認知症疾患医療センターは、認知症患者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるための支援の一つとして、都道府県が指定する医療機関に設置するもので、保健・医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断、地域における医療機関等の紹介、問題行動への対応等についての相談受付などを行う専門医療機関である。</p> <p>当クリニックはH29年10月三重県より認知症疾患医療センター連携型に指定された。従来より認知症疾患医療センターと同等の活動を行っており、指定後も活動内容に変化はなく、認知症の新患者・再来数ともに変化はない。その活動内容を報告する。</p> <p>認知症疾患医療センターの主な事業内容は、1) 専門医療相談 2) 認知症の初期診断・鑑別診断と治療方針の選定 3) 身体合併症・行動心理症状の初期診断と治療 4) 関係機関との連携 5) 連携協議会・研修会の開催 である。認知症の診断と治療だけではなく、地域の啓蒙活動、民生委員やヘルパー、介護スタッフへの講演などを通じて地域の認知症に対する理解を深め、「認知症とともに幸せに生きる＝認知症の人も、支援する人も幸せになる社会」を目指している。</p>	

## 第14回 三重県保険医協会医療研究フォーラム 会場のご案内



住所	三重県津市羽所町700
TEL	059-213-2111
アクセス	JR・近鉄津駅より徒歩1分 伊勢自動車道・津インターから車で15分
駐車場	市営アスト津駐車場（ホテル隣接） 270台（有料） ※駐車場には限りがあるため、また、意見交流懇親会ではアルコール類の提供を予定しているため、可能な限り公共交通機関でお越しください。